

科目名	基礎法学						
科目名(英)	Introduction to Jurisprudence						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	大谷美咲	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	四年制大学および短期大学教員	
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	法学の知識は、日常生活を送るうえで、必要なものです。本講義では、憲法、民法、刑法、労働法、行政法など幅広い領域の法律問題について取り上げていきます。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					身近な法律問題について問題の本質を的確に理解できるようになる・	
	○					基本用語について、簡単に説明できるようになる。	
		◎				法律問題について考えることにより、論理的思考能力を身につけ自分の考えを的確に伝えることができるようになる。	
					◎	人権感覚を身につけ、価値相対性主義を理解することによって紛争回避ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎法学 近畿大学九州短期大学通信教育部						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	法学の分類				テキスト第一章Ⅲに目を通しておく	
	2	憲法の全体構造、国民主権、象徴天皇制				テキスト第二章Ⅲに目を通しておく	
	3	幸福追求権、プライバシーの権利				プライバシーの侵害について考えてみる	
	4	平等権				性別による不平等、ジェンダー問題について考えておくこと	
	5	生命倫理と法				身体・生命の自己決定権、尊厳ある死について考えておくこと	
	6	政治と法				テキスト第二章Ⅶに目を通しておくこと	
	7	犯罪と刑罰の法				テキスト第八章に目を通しておくこと	
	8	確認テストと解説				各テーマについて説明できるようにしておくこと	
	9	家庭生活と法 婚姻				テキスト第六章に目を通しておくこと	
	10	家庭生活と法 相続と遺言				テキスト第六章に目を通しておくこと	
	11	労働生活と法				テキスト第七章に目を通しておくこと	
	12	裁判の仕組み				テキスト第九章に目を通しておくこと	
	13	裁判所見学及び裁判員制度体験				配布資料に目を通しておくこと	
	14	裁判所見学及び裁判員制度体験				裁判所について調べ、質問事項を考えておくこと	
	15	まとめのテスト				全範囲の復習	
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	80時間	担当者	中山八保子	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義：		演習：		実習：○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	施設実習では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 1. 施設の内容、機能などを理解する （1日の流れ、子どもや障害者の活動など） 2. 施設保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解 3. 子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する 4. 日誌の書き方を学ぶ 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること				・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など施設実習に向けた準備をする ・各自の実習のねらい、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習施設の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	保育実習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	80時間		担当者	中山八保子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護、障害者福祉に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援、障害児支援のための知識、技術、判断力を養う						
授業形式	講義:		演習:		実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		既習の強化や「保育実習Ⅰ」での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する	
				○		家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力を養う	
				○		児童家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士を目指す	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	10 日 間	以下の観点から保育士としての実践力を高めていこう努める ①児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割 ②児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解 ③養護、療育内容・方法の理解 ④多様な専門職との連携 ⑤保育士としての自己課題の明確化					・保育実習Ⅰ(施設)の反省点や自分の課題をまとめておくこと ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める
評価方法	①実習日誌などの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習施設の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅰ(施設)を終えておくこと						

科目名	更生保護制度									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		百枝 孝泰	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		高齢者施設にて施設長として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科3年生									
授業概要	我が国における犯罪者の処遇と犯罪予防を含む更生保護の現状と課題について、事例や動画から現在の社会問題と照らし合わせた上で理解を深める。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					更生保護の様々な現状を踏まえた上で、自身の考えや感想をしっかりと表現することができる。				
		○				罪を償った後の社会復帰への対応の現状について理解するとともに、その妥当性と将来性について考えを深める				
					○	実際の更生保護の現場を見学し、講話を通じて現状を身近に感じることから、今後の職業観や人間観に対して再考する機会を設けることができる。				
テキスト・教材 参考図書	プリント・動画閲覧									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	更生保護制度の概要について								
	2	更生保護制度の関係機関とその連携について①								
	3	更生保護制度の関係機関とその連携について②								
	4	現在起こっている事件と更生保護の関連性について①								
	5	現在起こっている事件と更生保護の関連性について②								
	6	医療刑務所について								
	7	北九州医療刑務所の見学								
	8	北九州医療刑務所の見学								
	9	見学の振り返りと更生保護制度の現状と今後の方向性について								
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする 授業の内容を踏まえて、事後レポートを作成・提出。その内容も評価要素として考慮する。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート		○					70%		
	出席状況					○		30%		
履修上の注意										

科目名	保育・教職実践演習SC						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	川原ゆり	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員	
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	社会福祉科では、3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探究して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的として「卒業研究」を実施している。本スクーリングでは、そのテーマを決定するためのプレゼンテーションと、進捗状況を報告する「中間発表」を行う。そして最終的に2月に本発表を行う流れになっている。						
授業形式	講義：		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探究し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
	○	○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
	○	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる	
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 卒業研究として追及したいテーマをグループもしくは個人で発表を行う				9月末に実施	
	2	1日目 テーマ発表の続き					
	3	1日目 テーマ発表の続き					
	4	1日目 発表を聞いてテーマとグループについての話し合い					
	5	2日目 グループ毎に中間発表を行う				11月後半に実施 (発表30分質疑応答20分)	
	6	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	7	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	8	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	卒業研究への取り組み状況	○	○		◎		20%
	グループ活動の参加状況	○			○		20%
	内容の理解	○	○		○		20%
	発表のスキルと意欲	○			◎		20%
	自己とグループの振り返り				◎		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	宮井浩志	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務	
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	措置制度の時代からの名残であろうか現在でも通常のサービスと福祉サービスを別物として捉え、誤った理解がされている。世間だけでなくサービス提供する側でさえも多くの者が未だにその認識のままである。この授業では、契約制度の福祉サービスは今や身の回りにある一般のサービスと何ら遜色ないことを理解し現在の福祉サービスの概要だけでなく、組織や経営面まで学んでいく事で現場及び経営者側の両方の視点を身に付け、社会で応用できる力を養っていく。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				福祉サービスの概要について説明することができる	
		○				組織の概要を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 福祉サービスの組織と経営						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サービスの理解					
	2	福祉サービスの理解					
	3	経営管理の理解					
	4	経営計画の理解					
	5	法人の種類と概要					
	6	社会福祉法人についての理解					
	7	NPO法人についての理解					
	8	組織の理解					
	9	集団の理解					
	10	グループダイナミクスの理解					
	11	リーダーシップの理解					
	12	サービスマネジメントの理解					
	13	全体のまとめ					
	14	特別授業(タイムマネジメント)					
	15	特別授業(コミュニケーション)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	権利擁護と成年後見制度										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		大坪秀生		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		高齢者施設での相談業務 施設の運営管理		
対象学科・学年	社会福祉科 3年生										
授業概要	●権利とは何か、人権とはどういったものか を学び、「その人らしさ」や平等・公平・平和について考える。 ●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○		○	○	「権利とは何か」を考え理解し、言語化できる。					
	○	○		○	○	専門用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。					
	○	○		○	○	権利擁護を学ぶことで、人権の大切さや意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。					
	○	○		○	○	社会福祉士の存在価値や意義を理解し、専門職としての役割がイメージできる。					
		○		○	○	進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。					
テキスト・教材 参考図書	◎新社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』 ○社会福祉士養成講座研修委員会 中央法規 時事話題										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、権利とは					この科目の注意事項を伝えます				
	2	日本国憲法と権利					ニュース・新聞等で自治情勢を知る				
	3	私法・民法と権利					ニュース・新聞等で自治情勢を知る				
	4	実際の事例を通して … 新聞記事から人権を考える					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、人権を考える				
	5	相談のインテークと連携 事例を通して1					ニュース・新聞等で自治情勢を知る				
	6	専門職の役割りと権利擁護 事例を通して2					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、人権を考える				
	7	社会福祉士の視点からみる 権利擁護・人権 事例を通して3					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、権利擁護とは				
	8	地域で支える 事例を通して4					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、人権と地域				
	9	司法の視点からみる権利擁護 事例を通して5					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、				
	10	成年後見制度とは～その1 事例を通して6					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、後見制度とは				
	11	成年後見制度とは～その2 事例を通して7					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、自己決定支援				
	12	マネジメント技法(ケースの捉え方) 事例を通して8					ニュース・新聞等で自治情勢を知る、人権に配慮				
	13	まとめ 振り返り					ニュース・新聞等で自治情勢を知る				
	14	スペシャル企画 I					学生生活を振り返る、社会人としての心構え				
	15	スペシャル企画 II					学生生活を振り返る、社会人としての心構え				
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	◎				68%				
	小テスト・レポート	◎	○				15%				
	グループワーク・発表	◎	○		◎	○	17%				
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance Ⅳ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	川原ゆり	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員	
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であり、3年間の集大成としての科目として、東住吉小学校福祉体験授業の準備と実践、振り返りに当て、改めて福祉とは何か、について考える機会とする。同時に残り半年で現場に出る学生たちに、自分たちは専門職として働くと言う自覚を養い、プロとして働けるような知識と価値を身につけてもらいたい。						
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△			○		福祉体験授業の計画及び準備を行うことができる。	
	△			○		子どもたちと関わる上で、相手に分かりやすく伝えることができる。	
	△			○		福祉体験授業の振り返りを通して、自分自身とグループの関わりを振り返ることができる。	
	△			○		チームで協力し、より良い実践を行うために積極的に発言や行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉体験授業について～昨年度の振り返りとリーダー・チーム決め					
	2	福祉体験授業の計画①骨格作り				東住吉小学校の担任の先生と打ち合わせ	
	3	福祉体験授業の計画②骨格作り				東住吉小学校の担任の先生と打ち合わせ時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	4	計画に添ってシミュレーション①				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	5	計画に添ってシミュレーション②				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	6	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備①				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	7	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備②				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	8	計画に添ってシミュレーション③				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	9	計画に添ってシミュレーション④				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	10	シミュレーションの振り返りと計画の練り直し準備③				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	11	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備④				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	12	計画に添ってシミュレーション⑤				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	13	計画に添ってシミュレーション⑥				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	14	本番に向けて準備				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
	15	本番に向けて準備				時間内に終わらなければ時間外で準備を行う	
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)グループ活動の協力、積極的に発言や行動ができているか。 (3)子どもたちへの接し方や伝え方はどうか。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		10%
	活動への参加度				◎		30%
	グループ内での役割と協力度	○	○		◎		30%
	子どもたちへの関わりと伝え方	◎			◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。社会的養護内容は近大科目なので、この単位を落とすと近大を卒業できなくなることに注意。						

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	高崎修一	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として 地域福祉を推進	
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	地域福祉の実践に関する項目の授業となる。法制度やサービス体系、地域福祉に関わる人材、関係機関・団体等の学習をすることにより卒業後の将来に備える。専門職として地域福祉の推進に如何に関わってゆくかまたどのようにしてフォーマル、インフォーマルサービスに関わるのかなどを学ぶ。また最近の動向として前期と重なるところはあるが福岡ライフレスキュー事業、貧困支援ネットワークふくおかなどの実践事例を紹介する。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の実践に備える。	
		○				実践的知識を身につけ、それを活用できるような人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、将来地域福祉にどのように関わってゆくのかを期待する。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルバ書房の「よくわかる地域福祉」5版 ・自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策先生著 厚労省参考資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域福祉の政策と行政組織				5章プリント	
	2	地域福祉に関する法制度 NPO法、日常生活自立支援事業(DVD)				同上	
	3	地域福祉に関する法制度 成年後見制度(民法改正第873条2項に関して) 地域保健・医療、生涯学習				同上	
	4	共同募金 5章小テスト				同上	
	5	地域福祉のサービス体系:情報提供・相談体制、福祉ニーズの発見				6章プリント	
	6	地域福祉のサービス体系:ケアマネジメント、予防的サービス、環境改善S				同上	
	7	地域福祉のサービス体系:在宅サービス、施設サービス、インフォーマルS				同上	
	8	地域福祉のサービス体系:当事者活動、NPO活動 6章小テスト				同上	
	9	地域福祉に関わる方法:コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポート、ネットワーク、ボランティアコーディネート				7章プリント	
	10	地域福祉に関わる方法:地域組織化、間接援助技術、福祉教育				同上	
	11	地域福祉の人材:主体と担い手、コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター				8章プリント	
	12	地域福祉の人材:民生委員・児童委員、専門職、ボランティアに関して				同上	
	13	地域福祉に関わる機関・団体:社協、社会福祉施設、行政機関				9章(社協DVD30分程度)	
	14	地域福祉に関わる機関・団体:SHG,当事者組織、ボランティアセンター				同上	
	15	福祉のまちづくり:福祉コミュニティ、ADA法、ユニバーサルデザイン等				10章プリント	
評価方法	5章、6章に関して30分～40分程度の50点満点の小テストを行い、あわせて100点満点の採点をおこなう。正試験100点満点のテストとの平均点にて総合評価を行う。但し正試験が60点以上の者が評価対象となる。評価基準は当校の基準にて5段階評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験		○				45%
	小テスト		○				45%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)	social reseach						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	元障がい児者施設指導員	
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	社会調査に携わったことがほとんどないと思われるが、今後ますます社会福祉専門職にとって重要となる。身近な問題や起こり得る生活課題を扱ながら、実際に調査の企画から結果考察までの一連の流れを体験することで実感の伴う知識の習得を目指す。①社会調査の意義と目的、②統計法(社会調査における倫理および個人情報保護)、③統計手法、④量的調査の方法、⑤質的調査の方法、⑥社会調査の実施にあたってのITの活用等						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		社会福祉調査の意義・目的を説明することができる。	
				○		社会福祉領域の社会福祉調査の重要性を説明することができる。	
				○		社会福祉調査にかかわる法律や倫理の重要性について説明できる。	
				○		量的・質的調査方法を説明できる。	
				○		社会現象の背景を推察し、「問い」をたてることができる。	
				○		初歩的な統計分析のいくつかを理解し活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書 米川和雄『ソーシャルワーカーのための社会調査の基礎 入門から社会福祉士国家試験対策まで』北大路書房 斎藤嘉孝『社会福祉調査 企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会福祉調査とは ①社会調査の意義・目的、②社会調査の対象、③ソーシャルワークと社会調査との関係				自分が興味を持っていること(社会福祉)考えてくこと	
	2	統計法 基幹統計、センサス 等				社会福祉調査のイメージを考える	
	3	社会調査における倫理と個人情報				現代社会にどのような福祉ニーズがあるのか考えてくる	
	4	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査					
	5	無作為抽出法と有意抽出法					
	6	量的調査の方法③質問紙の作成方法と留意点					
	7	量的調査のデータの集計と分析方法(データ化、測定、単純集計とクロス集計、等)					
	8	質的調査の方法(観察法と面接法)					
	9	分析方法(KJ法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ)					
	10	テーマ設定と文献検索					
	11	ITの活用					
	12	社会調査におけるITの活用、インターネットでの文献検索について					
	13	報告書のまとめ方					
	14	ソーシャルワークにおける評価の意義					
	15	試験に向けて、ソーシャルワークにおける評価方法					
評価方法	①定期試験、②振り返り提出						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	ふりかえり	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	状況によって授業内容を変更することがある。授業を円滑に進行するためには、課題は必ず作成して来ること。 スマホ等の携帯電話は、カバンの中に片付けておくこと。積極的な発言と質問を期待します。 ※5回の欠席で定期試験を受ける権利は消滅することを理解しておくこと。						

科目名	相談援助演習Ⅵ(保育・教職実践演習)						
科目名(英)	Exercises of Social Work Ⅵ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探究して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探究し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
		○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
		○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる	
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献、インターネットによるリサーチなど						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定					
	3	テーマ決定とグループの決定					
	4	中間発表に向けて研究					
	5	中間発表に向けて研究					
	6	本発表に向けて研究					
	7	本発表に向けて論文の完成					
	8	発表に向けてパワーポイントの作成					
	9	発表に向けてパワーポイントの作成					
	10	発表に向けてパワーポイントの作成					
	11	発表に向けてパワーポイントの作成					
	12	本発表					
	13	本発表					
	14	本発表					
	15	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)	Health Service						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下琢也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカーとして勤務
対象学科・学年	社会福祉科 3年生						
授業概要	MSW(メディカルソーシャルワーカー)に必要な知識を得ることを目標としつつも、何気なく過ごしている生活の中で必要な医療業界の仕組みについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					MSWの業務指針を踏まえつつ、MSWの持つ役割について理解することができる。	
		○				MSWの実践において求められるスキルについて理解することができる。	
		○				MSWの活動のフィールドである医療業界の仕組み、システムについて理解することができる。	
		○				診療保険制度、地域包括ケアシステムについての状況について理解することができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 新・社会福祉士養成講座17「保健医療サービス」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～MSWの概要～					
	2	MSWの役割(業務指針から)①					
	3	MSWの役割(業務指針から)②					
	4	MSWに求められるスキル①					
	5	MSWに求められるスキル②					
	6	診療報酬の流れ					
	7	MSWの歴史					
	8	社福士の診療報酬上の位置づけ					
	9	保険の種類について					
	10	病棟の種類について～病院のシステム～					
	11	医療関連の専門職について					
	12	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ①					
	13	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ②					
	14	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ③					
	15	まとめ(これまでに内容の復習)				定期試験の向けて、これまでの授業内容を確認しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	相談援助演習Ⅶ(卒研)						
科目名(英)							
単位数	3単位		時間数	48時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探究して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探究し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
		○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
		○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2 ～ 3	テーマの選定				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	4	テーマ決定とグループの決定				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	5 ～ 9	中間発表に向けて研究				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	10 ～ 12	中間発表に向けて研究				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	13 ～ 14	本発表に向けて研究				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	15 ～ 17	本発表に向けての論文の完成				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	18 ～ 23	発表に向けてのパワーポイントの作成				必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと	
	24	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ						
科目名(英)	Professional basis of Social Work Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	熊谷妙子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者・障がい者施設にて相談員・施設長として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	相談援助に係る専門職の概念と専門職倫理について学ぶ。また、総合的かつ包括的な他職種連携によって生み出されるソーシャルワークの奥深さを知り、複雑化している福祉現場でのケースに対し、個人の力のみならず、チームアプローチによって対応しうる人材の育成を行う。						
授業形式	講義：○	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		尊厳や人権についての理解を深める	
				○		自分と他社の価値観の違いを理解し、受け入れることができる	
	○	○		○		基本的なコミュニケーションスキルを身に着ける	
	○	○		○		相談援助を行う上で不可欠なチームプレイを重視した動きができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・全国社会福祉協議会「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉職員へ向けての目標設定			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	2	命と尊厳 現場編			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	3	自己覚知 アンガーマネジメント②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	4	アンガーマネジメント演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	5	相談援助の基本 傾聴②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	6	傾聴②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	7	現場で活かす接遇②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	8	接遇演習②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	9	会話を発展させる コーチング②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	10	コーチング②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	11	専門職の視点を養う リスクマネジメント②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	12	リスクマネジメント②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	13	1年間のまとめ			1年間を振り返り、就職に活かすこと		
	14	1年間のまとめ			1年間を振り返り、就職に活かすこと		
15	1年間のまとめ			1年間を振り返り、就職に活かすこと			
評価方法	①宿題・ミニレポート ②発表・授業態度など 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎	○				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		20%
	発表・作品	◎	◎		◎		30%
履修上の注意							

科目名	心理学的理論と心理的支援						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	大黒 剛	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	児童福祉施設や矯正施設で心理士として活動	
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	①さまざまな心理学理論の基礎を学び、人の心の成り立ちや状態を理解する視点を習得する。 ②心理的支援とは何か、日常生活で心理学を活用するにはどうすればよいか、基本となる考え方を習得する。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					さまざまな心理学理論を基に人の心の成り立ちや状態について説明できる。	
		○				日常生活の中に生かされている心理学について興味・関心を持ち、自身の日常生活と関係づけることができる。	
	○					心理的支援の意味を理解し、具体的な支援方法について説明できる。	
				○		人の心の仕組みを理解しようとする意欲と同時に自分の心の状態を見つめ理解しようとする基礎態度を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」					
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと	
	3	心の育ち方「乳幼児期から思春期まで」 母子関係、友人関係				対人関係の基礎となる、養育者との関係について考えておくこと。	
	4	心の育ち方「青年期から成人まで」 恋愛と結婚について				あなたにとって恋愛とは何か、結婚とは何か、恋愛と結婚の違いとは何か、考えておくこと。	
	5	人の個性を科学する「性格とパーソナリティ」				自分の性格について自己分析して語れるようにしておくこと。	
	6	心のしくみ①「記憶」 忘れたい人がいるのに忘れられない謎				忘れたい記憶なのにどうしても忘れられない話があれば語れるように準備しておくこと。	
	7	心のしくみ②「動機付け」「感情」				やる気がない時に、どのようにやる気を上げているのか考えておくこと。	
	8	心のしくみ③「学習」「言語」「思考」				あなたは自分の経験をどのように未来に活かしているのか、考えておくこと。	
	9	社会的問題と心理学①「児童虐待とは何か」				児童虐待事件について、インターネットなどから最新の情報を集めておくこと。	
	10	社会的問題と心理学②「児童虐待の影響」				心的外傷後ストレス障害、愛着障害について勉強しておくこと。	
	11	心の傷と心の病気①「さまざまな精神疾患」				傷付き体験やストレス、ストレッサーについて考えておくこと。	
	12	心の傷と心の病気②「うつ病」「自殺」				うつ病や自殺に関する最近の動向について、厚生労働省のホームページなどを確認しておくこと。	
	13	社会と集団①「対人魅力」 モテる人とモテない人の違いとは。				モテる人とはどんな人か、どうすればモテるようになるのか、考えておくこと。	
	14	社会と集団②「自分は他人からどう見られているのか」				自分は自分のことをどう思っているのか、他人は自分のことをどう思っているのか、考えておくこと。	
	15	まとめと復習				心理学とは何か、日常生活で心理学を活用するためにはどんな方法があるのか、考えておくこと。	
評価方法	(1)講義の終わりに感想・疑問点・気がついたことなどを記入・提出してもらう。(2)期末試験を実施する。(3)出席回数。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎		◎		100%
履修上の注意							

科目名	情報処理Ⅱ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		岩下 隆司	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		社会人スクール講師3年 専門学校情報処理担当教員22年	
対象学科・学年	社会福祉科3年									
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Excelの操作方法の習得									
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。				
			○			Excelを使って、表作成、関数の挿入、グラフ作成ができる				
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 情報リテラシー入門編									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	入力チェック・Excelの仕組み								
	2	入力チェック・計算式の挿入								
	3	入力チェック・簡単な表作成								
	4	入力チェック・関数の挿入(基本関数)								
	5	入力チェック・関数の挿入(応用関数)								
	6	入力チェック・カレンダーの作成								
	7	入力チェック・カレンダーの作成								
	8	入力チェック・カレンダーの作成								
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 (3)Excelでカレンダーを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	10分入力文字数			◎	○		40%			
	授業内実施課題の提出			◎	○		40%			
	授業態度				◎		20%			
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。									

科目名	マナー											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		進 ひろみ			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		一般企業、放送局に勤務			
対象学科・学年	社会福祉科3年生											
授業概要	福祉現場の「プロ」として働くことのできる人材として活躍するためには、信頼され、好感を持たれ、より良い人間関係を築くことが重要である。、そのため、即戦力として不可欠であるビジネスマナーの習得を目指す。グループワークやロールプレイングを通しコミュニケーションの基礎となる立ち居振る舞い、言葉遣いの基本を身に付け、知識だけではなく現場で実践できることを目指す。											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		○				実習生の品格、社会人としての心構えを理解することができる						
	○	○				電話応対、訪問時の正しい言葉遣いについて理解し実践することができる						
			○			感じの良い立ち居振る舞いについて理解し実践することができる						
	○					好感・信頼感を持たれる言語コミュニケーションを理解し実践することができる						
				○		実習での正しいマナー、報告・連絡・相談の重要性について理解し実践することができる						
テキスト・教材 参考図書												
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション 社会人の心構えとマナーの必要性について										
	2	感じの良い立ち居振る舞い(表情・挨拶・態度・物の扱い)										
	3	職場の人関係 指示の受け方 報告の仕方										
	4	感じの良い言葉遣い 敬語の知識 ①										
	5	感じの良い言葉遣い 敬語の知識 ②										
	6	電話応対(取り次ぎ)①										
	7	電話応対(取り次ぎ)②										
	8	接待(お茶の入れ方、出し方、いただき方)										
	9	冠婚葬祭のマナー・確認テスト										
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	確認テスト		◎		◎						70%	
	グループワーク・発表・提出物						◎				20%	
	授業態度										10%	
履修上の注意												

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	川原 ゆり
実施年度	2022 度		実施時期	後期		担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持する事ができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
				○		自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	3	就職活動指導③(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	4	就職活動指導④(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	7	就職活動指導⑦(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	8	就職活動指導⑧(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位未取得となる						

科目名	交流ゼミⅢ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		専門学校常勤教員として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科3年生									
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。									
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。				
					○	物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。				
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。				
					○	グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。				
					○	人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介								
	2	グループ内でのレクリエーション								
	3	グループ内でのレクリエーション								
	4	グループ内でのレクリエーション								
	5	グループ内でのレクリエーション								
	6	グループ内でのレクリエーション								
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備								
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	姿勢・態度					◎		100%		
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。									